

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称	施策I-2-3 農林水産業の担い手の育成・確保
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

畜産課長 原正三

電話番号

0852-22-5132

事務事業の名称	水田を活用した畜産担い手育成強化事業	
目的	(1) 対象	畜産農家、集落営農組織等
	(2) 意図	肉用牛の水田放牧を集中的に支援することで、新たな畜産担い手の確保や水田のフル活用、獣害防止対策等を推進する。
事業概要	集落営農組織等が行う水田放牧について試行から本格実施までを総合的に支援する。 ①集落営農組織等の人材の技術習得を支援 ・水田放牧実践スクールの開講 ・地域の畜産農家等を放牧アドバイザーに任命しサポート体制を構築 ② 畜産農家と集落営農組織等が連携して行う水田放牧の試行から本格実施までを段階的に支援 ・放牧牛バンク制度を創設し、畜産農家への放牧牛登録を奨励 ・集落営農組織等が放牧牛バンクを活用して水田放牧を実施することを支援 ・畜産農家が集落営農組織等へ牛を貸し出すための増頭を支援 ・集落営農組織が水田放牧を実施するための牛の導入を支援(集落営農体制強化スピードアップ事業で対応)	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	水田放牧実施件数			29.0	38.0	47.0	件
	式・定義	水田放牧に取り組む集落営農組織等の地区数			28.0			
			達成率	—	—	96.6	—	%
2	指標名							
	式・定義							
			達成率	—	—	—	—	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	9,572	13,714
うち一般財源(千円)	9,572	10,667

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

- ・集落営農組織等が実施する水田放牧面積： H29:112ha(H28:120ha)
- ・水田放牧に取り組む集落営農組織数： H29:28地区(H28:25地区)
- ・集落営農組織が所有する繁殖牛頭数： H29:48頭(H28:45頭)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・地域農業再生協議会(市町村、JA、関係団体等)との認識共有
- ・県やJA等の畜産、水田、集落営農担当者の連携による推進、サポート体制の構築
- ・放牧牛バンクを創設し、放牧可能牛の登録(8農家49頭)が行われ、地域でのお試し放牧実践体制が整備された。
- ・放牧牛バンク牛を活用することによるお試し放牧を4集落で実施
- ・放牧を実施する集落営農組織数が増加(H28→H29で3集落増)
- ・放牧実践スクールを開催し、生産者・関係者延べ92名が出席(全6回)し放牧技術等に関する周知が進んだ。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・水田放牧に興味を示す集落営農組織等がまだ少ない
- ・牛を飼うことや水田放牧への抵抗感が強い
- ・レンタル放牧牛の不在地域がある

②困っている状況が発生している「原因」

- ・水田放牧に対して具体的なイメージがないため、集落内の話し合いがスタートしにくい
- ・畜産のみならず、水田、集落営農担当者等を含めた更なる水田放牧の情報伝達が必要
- ・牛を飼養したことがない人や牛がない集落において、牛を飼うことへの知識が不足(脱糞、糞尿問題、資金等)
- ・牛の飼養経験がある人がおらず、繁殖・子牛育成等の技術をもった人が集落にいない
- ・畜産農家で水田放牧への理解がすすんでおらず、レンタル放牧牛が偏る

③原因を解消するための「課題」

- ・できるだけ多くの集落営農組織等に、実際の牛や放牧を見て、触れてもらう体制の強化
- ・畜産農家および関係機関担当者への耕畜連携の理解醸成と推進体制の更なる構築
- ・放牧の管理者などの、技術者の育成
- ・放牧を実践する場合のサポート体制
- ・放牧牛バンク登録牛を増やし、どの地域でもレンタルしやすい環境整備
- ・放牧牛を導入する際の負担を軽減するための支援

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 水田放牧(集落放牧)の周知、理解醸成： 集落営農組織等の研修会やシンポジウムでの周知活動の実施
- 放牧実践スクールの強化： 集落営農組織等に畜産経営に関する基礎知識を学んでもらい、放牧実施への不安を解消
- 放牧牛バンクの登録拡大： 畜産農家へ繁殖牛をレンタルすることの効果(省力管理、増頭支援等、非畜産農家への畜産経営への理解醸成)を周知
- お試し放牧の拡大： 水田放牧に興味をもつ集落営農組織と地域の畜産農家とのマッチングを強化
- 水田放牧の本格実施への支援強化： 地域に適した放牧実施計画の策定を支援
個別に対応した具体的な収支見込の提示
繁殖牛を所有し畜産経営を開始する集落営農組織等への資金的、技術的支援の強化
脱糞や事故時の保険制度の周知